



大江健三郎さん追悼

九条の会全国交流会開催

「九条の会」は5月28日、「大軍拡反対、憲法改悪を止めよう!『九条の会』全国交流集会一大江健三郎さんの志を受けついで」を東京千代田区で開催し、全国32都道府県、29の分野別の九条の会から292人が参加しました。

会の呼びかけ人で今年3月に亡くなったノーベル賞作家の大江健三郎さんを悼み、その思いを受け継いで運動を進めていく決意を表明しました。

岸田政権の危険な中身を学習し伝えていこう

小森陽一事務局長は、G7広島サミットの「広島ビジョン」は「核抑止力」論を全面的に正当化するものと厳しく批判。岸田文雄首相が進める、安保3文書に基づく「敵基地攻撃能力」の保有、5年間で43兆円の大軍拡の具体的な内容については、多くの人には知られていない、各9条の会は、その危険な中身について学習し、多くの人に伝えていく必要があると訴えました。さらに、任期末の来年9月までに9条改憲を明言する岸田首相の大軍拡政策に反対の声を大きくあげて、運動を進めていくことを呼びかけました。「九条の会」にとって正念場です。



九条の会全国交流集会

学習交流会開催「安保3文書の行方」

9条の会戸塚区協議会は、5月28日、講師に自由法曹団神奈川支部事務局次長の長谷川拓也弁護士をお招きして、「安保3文書の行方」と題した学習交流会を開催しました。会場の戸塚地区センターには、会議室いっぱいの44名の参加者が集まりました。



講演では、「安保3文書の重要なポイント」として、「反撃能力の保有」と「軍事費の増額」の2つに絞って解説があり、「反撃能力の保有」は、自衛権の範囲を逸脱しており、憲法9条違反に他ならないこと。

「軍事費の増額」は、防衛より軍拡につながり、増額する軍事費(例えば7兆円)を他に用いると、私たちの負担軽減が実現できる政策、たとえば消費税2%減税など具体的な例をあげた説明がありました。

「安保3文書」については、昨年12月に閣議決定されて以来、マスコミで取り上げてきたテーマですが、その中身はあまり知られていません。あらためて直接講師の先生からポイントを絞ってわかりやすく説明していただき、「わかりやすく、良かった」との感想が多く寄せられました。アンケートでは「是非今回のようにわかりやすく、真実を教えてください」という声がありました。

意見交換の場では、市民の力を集めるには、みんなを巻き込み、話の輪を広げて、事実や問題を知ることが大切など、これからの活動について活発な意見が出されました。

平和川柳[孫や子に、まともな世の中を]

我が余生 愛と平和に 微力でも
Gセブン 核廃絶は スルーして
爪に火を 灯す暮らしに また値上げ

9条かながわの会 6月9条学校があります。
平和と地球を守るための憲法9条
講演 武本匡弘さん(プロダイバー・環境活動家)
「海から考える地球・環境・平和」
日時 6月30日(金) 18:30~20:40
会場 神奈川公会堂ホール 資料代500円

東戸塚9条の会 勉強会
6月10日(土) 10~12時
東戸塚地区センター 工芸室

9の日宣伝は
6月9日(金)
17時~18時

G7広島サミット 「広島ビジョン」

被爆者を愚弄 「核抑止論」誇示

5月19～21日、広島で主要7ヶ国首脳会議（G7広島サミット）が行われました。初めて被爆地で開催されるサミットであったことから、核兵器廃絶への前向きな動きを示すことができるかどうか注目を集めていました。

被爆地から被爆者を裏切る「核抑止論」に固執

ところが、首脳が合意した文書「核軍縮に関するG7首脳広島ビジョン」は、「核兵器のない世界」を「究極の目標」として永久に先送りにし、「核抑止論」に固執する姿勢を公然と打ち出しました。被爆者をはじめ国内外の多くの人から失望と批判が相次いでいます。被爆地から被爆者を裏切るメッセージを出した広島サミットの議長・岸田文雄首相の責任は重大です。

被爆者・被爆地を愚弄する「核抑止論」誇示

岸田首相は、この「広島ビジョン」を発表できたことの「歴史的意義」を強調します。しかし、ビジョンは核兵器について「防衛目的のために役割を果たし、侵略を抑止し、戦争と威圧を防止する」と「核抑止論」を正当化し、誇示する姿勢を示しました。

これは、いざという時は核兵器を使用する、広島・長崎のような非人道的な惨禍もいとわないという立場です。被爆者から「死者に対する侮辱だ」と怒りの声上がるのは当然で有り、被爆地と被爆者を愚弄するものです。

核兵器そのものが「非人道的」の告発もなし

岸田首相は、G7首脳が被爆者と面会して直接被爆者の声を聞き、原爆資料館を訪問して核投下時の実相に触れたことも成果として誇りました。しかし、ビジョンには、その反映は全く見えません。核兵器そのものが非人道的な兵器だという告発さえありません。



絶対的に足りない それ(核廃絶)を言わずしてなぜ広島でG7をやっているのかと

NPT 第6条核廃絶への明確約束にも触れず

ビジョンは核不拡散条約（NPT）第6条に基づく「自国核兵器の完全廃絶の明確な約束」など、核兵器国が核兵器廃絶への義務を果たすことにも全く触れていません。

核兵器禁止条約は完全に無視

ビジョンは、2021年に発効し、68ヶ国が批准、92ヶ国が署名した国際法としての地位が確立している「核兵器禁止条約」についても、一言も触れず無視しました。核兵器廃絶を求める国際世論に真っ向から逆らうG7の姿があらわになりました。

自国の核は肯定、対立国の核は非難

ビジョンは、ロシアを限定して「核の威嚇を許さない」と非難し、中国については「加速している核戦力の増強は、世界及び地域の安定にとっての懸念となっている」と懸念を表明し、北朝鮮の核については「不可逆的放棄」を表明しながら、我々G7の核は「防衛目的の役割を果たす」などと正当化しています。

被爆者でカナダ在住のサーロー節子さんは、「自国の核兵器は肯定し、対立国の核兵器を非難するばかりの発信を被爆地からするのは許されない」と訴えています。

核兵器禁止条約に向き合うとき

被爆者に面会し、原爆資料館を訪問したG7各国首脳が被爆の実相を本当に胸に刻んだのであれば、取り組むべきは即時核廃絶以外ないはずで、G7各国は「核抑止力」論の根本的見直しと、核兵器禁止条約に正面から向き合うことが強く求められています。

日本政府には、その先頭にたって核兵器禁止条約の署名・批准に向けての決断をすることが求められています。